

## クモの里山の芸術家

小川 洋子（八千代市）

日 時：2014年11月2日（日）10：30～12：00 天候：曇り時々晴れ

参加者：13名（大人11名、子ども2名）

担当指導員：太田慶子、小川洋子

観察会前日は1日中雨。クモの巣や卵のうの観察がテーマだったため、雨でクモの巣(網)が無事かどうか気がもめた。当日はまずまずのお天気で、ひとまずホッとした。

最初にスズメバチなどの注意をして、観察開始。

まずは参加者の小学生がスタート前に見つけたビジョオニグモの観察から。ビジョオニグモは金色に輝く美しい円形のキレ網を張るクモ。春に同じようなキレ網を張るアオオニグモに対してビジョオニグモは秋のクモと説明をする。ケースに入れて美女の姿を観察。背面は白いが、腹は緑。葉に隠れているときはその腹部を見せて上手にカモフラージュしている。



次に注目したのはジョロウグモ。比較的高い位置に、前後に小さな網をつけた大きな馬蹄形の網がいくつも見られた。これも秋の代表的なクモだ。さらに広場のフェンス脇のオオトリノフンダマンの卵のうを観察。茶色の袋のような形の物体がクモの卵のうと知って、参加者からは驚きの声も上がった。とてもクモとは思えない姿の親を見せてあげられなかったのが残念。そのすぐ近くには小さなゴミグモが網を張っていた。ゴミも大してついておらず姿は見え見えだが、つついても「私はゴミです」と言い張るように動かないのがおかしい。



オオトリノフンダマンの卵のう

林に入る手前に置かれた枯れ木には、キノボリタテグモの巣がある。空の巣だが、袋状の巣には直径1cm位の戸が付けられている。一同その精巧な作りに感心した。その他林内には扇形の網をかけるオウギグモ、きれいな渦巻きの隠れ帯を付けたウズグモたちの網、オオシロカネグモの緻密な網、垂直円網の真ん中につるした枯葉の中に隠れたハツリグモなどが次々に見つかる。参加者に、霧吹きでそれぞれの巣の形を確認していただいた。3歳の小さな坊やお父さんの手助けで一生懸命霧を吹きかけて興味津々。小学生の女の子は枯葉の中に潜んでいたクモを手にとって姿を確認していた。

めじろんばを過ぎたあたりの木の根元にはジグモのストッキング様の巣が見られた。その他隠れ帯を付けたナガコガネグモと卵のう、アオキの葉の上にクサグモの巣、松葉のようなオナガグモ、水路に水平円網をかけたアシナガグモも見られた。谷津田の奥では葉裏の卵のうを守る雌のジョロウグモが観察できた。どちらかという嫌われ者の感があるクモだが、網や卵のうなどを見て参加者の方々認識が変わってくれればうれしい。

当日は草刈りの日と重なり、集中しにくい面があったが、草刈り中に捕えたマムシを見せてもらい、野外の危険生物マムシの特徴である「銭型紋」を確認できて良かった。